



日本外科代謝栄養学会 第60回学術集会

ランチョンセミナー 6

2023

7/7

金

12:10~13:10

会場

第3会場 (3F 六甲) シェーンバッハ・サボー

消化器疾患の周術期管理を強化する ～外科医を助ける亜鉛の知識

座長

海野 倫明

先生

東北大学大学院 医学系研究科 外科病態学講座
消化器外科学分野 教授

演者

松尾 洋一

先生

名古屋市立大学 大学院医学研究科 消化器外科学 教授

本セミナーは、整理券制ではありません

共催

日本外科代謝栄養学会第60回学術集会

株式会社シノテスト

消化器疾患の周術期管理を強化する ～外科医を助ける亜鉛の知識

名古屋市立大学 大学院医学研究科 消化器外科学 教授

松尾 洋一 先生

近年、手術を基軸とした外科治療の成績は飛躍的に向上してきた。手術手技の向上や低侵襲化はその大きな要因であるが、手術以外の要因として、周術期管理が大きく変化してきたことも挙げられる。実際、周術期における栄養管理の重要性は、近年、多くの報告を認めるようになってきた。なかでも「低栄養」が合併症を増加するだけでなく、癌の予後を悪化させる要因の一つにも挙げられるようになってきたことは腫瘍学的にも興味深い。

そのような中、栄養因子の一つとして「亜鉛」が注目されるようになってきた。この古くて新しい微量元素は、人の成長、免疫、創傷治癒などに関与していることは古くから知られていたが、近年、消化器疾患の病態との関連が明らかとなってきた。

1) 肝疾患と亜鉛

肝硬変患者は血清亜鉛濃度が低く、その結果、アンモニアの代謝障害が誘導される。これをうけ、肝性脳症患者に対する亜鉛補充療法がガイドラインでも推奨されるようになった。

2) 膵疾患と亜鉛

膵臓の線維化に伴って血清亜鉛濃度が低下することが知られている。膵切除後ではさらに亜鉛の吸収が低下し、亜鉛欠乏になりやすい。この亜鉛の低下が膵切除後の短期合併症や脂肪肝の発症に関連しているとの報告もあり、臨床的に注意が必要である。

3) 消化器癌と亜鉛

肝硬変患者に亜鉛補充療法を行うと、肝細胞癌の発症が低下することが報告された。その他の癌においても、癌の進行に伴って血清亜鉛濃度が低下することがわかってきた。癌の進行に対する亜鉛欠乏の因果関係はまだ十分には解明されておらず、今後の研究がまたれるところである。

本セミナーでは、消化器疾患の周術期管理を亜鉛に着目しながら再考する。亜鉛に関する基礎知識と研究成果を、自施設のデータも取り入れながら解説する。